



内科秘録

十三

小児

武	信
777	
13	





信 777 13



內科秘錄卷之十三

目錄

小兒

頭嗽

魘病

馬脾風

丹毒 附圖

鵝口瘡

頭瘡

傷寒

內科秘錄

卷之十三 目錄

。

目錄



痢病

瘧疾

中暈

解顛

龜胸

龜背

胎黃

小便濁

遺尿

滯顛

內科和錄 卷十三

諸蟲

五軟

語遲

行遲

髮遲

齒遲

啞

眼閉不能開

眼瞼合閉

麻疹







ハ必ス咽ニ着クカ如シ初ハ風邪ノ如ク咳嗽連聲  
 頓頓トシテ止マス心下拘急シテ乳ヲ吐キ食ヲ吐  
 キ續テ粘液ヲ吐キ或ハ吐血スルモアリ胃中ノ物  
 ハ殘ラス飜出シテ殆ト悶絶セント欲ス寒熱ナシ  
 ト雖凡乳食共ニ吐キ盡スユエ身體羸瘦シテ初生  
 ノ兒ハ稀ニ死スルヲアリ世ニ奇方多シト雖凡寸  
 効ヲ奏セス日數大約百日ヲ歷レハ自ラ愈ル者ナ  
 リ因テ百日咳ノ名アリ或ハ疳ニ變シ或ハ癩ヲ發  
 スルモアリ

治法ハ第一ニ風寒ヲ避ヘシ晝煖リ居ル寸ハ夜ニ入

テ咳少ク晝冷ユル寸ハ夜ニ入テ嗽ノ出ルヲ多シ  
 專一ニ小青龍麻杏甘石ノ合方ヲ與ヘ寧嗽膏ヲ兼  
 用トスヘシ三歳以上ノ小兒ニハ吐酒石二三厘ヲ  
 與ヘ粘液ヲ吐シメテ奇驗ヲ得ルヲアリ又厚朴茯  
 苓湯麥門清肺飲白附飲ノ類ヲモ撰用スヘシ

頓嗽應用方  
 厚朴茯苓湯兒科方要治頓嗽頓嗆連聲不已

- |    |      |     |    |    |    |
|----|------|-----|----|----|----|
| 厚朴 | 錢半   | 茯苓  | 半夏 | 陳皮 | 枳實 |
| 南星 | 湯泡七次 | 大腹皮 | 甘草 | 桑皮 | 生薑 |
| 桑皮 | 一錢   | 生薑  |    |    |    |



右十味煎服。

麥門清肺飲

保赤

咳甚氣喘連聲不住名頸嗽甚至飲食

湯水俱噎出或欬出血此熱毒乘肺而然也此湯主之

天門冬

款冬花

桑白皮

貝母

麥門冬

馬兜鈴

地骨皮

知母

杏仁

牛蒡子

甘草 桔梗

右十二味煎服。

白附飲

兒科要方

頸嗽者小兒欬即噎連聲嗽則臉紅吐即

嗽止嗽久不已眼腫而目中白珠起有紅絲者即不可

用涼藥此湯主之

白附子

枳實

防風

全蝎

膽星

天麻

半夏

各一錢

薑蚕

官桂

丁香

木香

甘草

各四分

生薑

右十二味煎服。



Blank manuscript area with vertical lines.

小兒

魘病

魘病ハ病源候論ニ出ツ醫燈續焰ニ魘病ニ作ル蓋シ  
魘魘通用ス又繼病氏云フヲトミヤ<sub>レ</sub>氏又ヲトミ  
ツハリ氏云フ常州ノ方言ニ「ハナヒト云フ魘ハ  
小鬼ノヲニテ小兒黃瘦シテ小鬼ノ如クナリタル  
義ナリ小兒ノ未タ成長セスニ其母早ク妊娠スル  
寸ハ乳汁不足ニナリ小兒常ニ饑テ氣六箇敷ナリ  
愈<sub>レ</sub>患啼泣スルモノヲ魘病ト名ク即チ俗ニ云フ「  
ハナヒトナリ軟飯稀粥及ヒ乳粉ト稱シテ米粳



ノ合粉ヲ煉リタル物ニテ介抱スレ氏脾胃ニ慣レ  
 スモノヲ卒ニ食スルユエ脾胃ヲ傷リテ完穀下利  
 ニナリ後ニハ疳ニ變シ飲食ヲ貪リ常ニ過食シテ  
 數下リ遂ニ身體黃瘦シ腹ノミ脹滿シテ青絡ヲ見  
 シ至極大病ニナルモノナリ醫俗共ニ其病因ヲ察  
 セス徒ニ蟲ト為シテ強テ藥ヲ與ヘ漫ニ灸ヲ炷ル  
 ハ大ナル心得違ナリ此證ハ前ニモ云フ通り脾胃  
 ノ虚弱ヨリ起ル病ニテ是追播餌ニテ養ヒタル小  
 鳥ヲ卒ニ時餌ニシテ脾胃ヲ傷リタルニ同シナ  
 レハ藥餌鍼灸ノ治スル所ニアラス先ツ乳母ヲ倩

ヒ或ハ乳アル人家ニ託スルヲ最第一ノ良策トス  
 然レ氏長シタル小兒ハ人ヲ認識リテ乳ニ就キ兼  
 ルモノナレ氏其儘手ヲ束ヌヘカラス乳母晝ハ小  
 兒ノ左右ニ侍シテ俱ニ遊戯シ夜ハ寐添テ小兒ノ  
 眠リ際ニ乳ヲ飲マシムルヤウニスル氏ハ自然ト  
 慣染モノナリ魘病ニテ吐瀉久シク止マヌ肉燥骨  
 立シテ危篤ニ至リタル者ヲ此手段テテ回春シタ  
 ルヲ舉テ筭フヘカラス



小兒

馬脾風

馬脾風ハ病源候論ニ出ツ幼幼新書ニ脾ヲ痺ニ作り  
 テ咽喉諸病ノ下ニ次ツ病源ニハ喉痺ノ次ニ論シ  
 テ即チ急喉痺ノ一種ナリ其證大人ノ哮喘ニ似タ  
 ルユエ元ノ莊思敬カ濟生拔萃方及羅天益カ衛生  
 寶鑑ニ小兒喘脹ト為シタルハ誤ナリ先師南陽ノ  
 醫事小言ニハ驚風ノ條下ニ之ヲ併論シテ胎毒ト  
 為シタルユエ我郷ノ醫工多クハ此說ヲ奉シテ咽  
 喉病ナルヲ知ラス驚風ノ一種ニ慢脾風ト云フ

幼幼新書



者アリ恐ラクハ先師ハ慢脾馬脾ヲ誤テ一病ト為シ驚風ノ類ト為シタルナルハシ西洋ニテハ之ヲ咽喉義膜焮衝ト云フ先ツ小兒ノ病ニテ初生ヨリ六七歳ノ間ニ多ク十歳以上ニ少ナシサレド大人モ稀ニ之ヲ患フルヲアリ即纏喉風ト名ク此病一種ノ外邪ニシテ數流行ス殊ニ海濱ニ多シ先年ハ希有ニシテ二十年来尤多シ初發ハ感冒ノ如ク微熱咳嗽アリテ輕證ニ見ユルニ卒ニ喘急シテ大人ノ哮喘ノ如クニナリ鼻扇肩息シテ須臾モ父母ノ手ヲ離レス聲啞シテ少シモ發セス頸及頤下ニ累

累ト核ヲ結ヒ一圓ニ漫腫シ或ハ焮衝スルモアリ咽喉ヲ見ルニ扁桃臆胞左右共ニ圓ク腫レ出シ斑斑ト白ク膿ヲ含ミ乳モ食モ通リ難クニ三日或ハ四五日ノ間ニ痰喘壅盛シテ死ス至極ノ難證ニシテ死ヲ免ル者ハ甚稀ナリ西說ニ論スル通り咽ノ膜ノ焮衝ニテ數一二寸ノ膜ノ切レタルヲ吐クトアリ一男子氣道ノ膜及ヒ肺管ノ膜マテ岐管ニナリタルヲ吐キタルヲアリ十歳以上ノモノハ日ヲ延キテ十餘日ニ至レハ自潰シテ膿血ヲ吐キ或ハ肺へ流注シテ肺癰ニ變シ生路ヲ得ル者アリ



治法ハ涼膈散加石膏ヲ與ヘ紫雪ヲ兼用トス耳下ト  
 頸トノ間ヘ左右共ニ發泡ヲ施シ或ハ蟻針ヲ行ヒ  
 或ハ刺絡ニテ病勢ヲ挫クヘシ第一ノ良策ハ吐法  
 ナリ三歳以下ハ吐酒石一厘半ヲ與ヘ四歳以上ハ  
 二厘或ハ二厘半ヲ與フヘシ乍チ頑痰ヲ吐キ或ハ  
 斷膜ヲ吐テ愈ルモノアリ假令愈サルモ吐後ハ喘  
 急立ニ止ミテ姑安靜ニナルモノナリ喘急ノ甚シ  
 キハ麻杏甘石湯若クハ甘草桔梗湯ニ宜シ衝心ノ  
 候アラハ參連湯ナリ

馬脾風應用方

麻杏甘石湯 甘草桔梗湯 涼膈散加石膏  
 參連湯 紫雪 吐酒石 發泡







ニシテ正宗ニハ小兒ノ二字ヲ冠シテ小兒赤遊丹  
 ト名ク初生四五十日ノ間ニ多シ或ハ二三歳ニシ  
 テ患フルコトモ有リ外感ニシテ即チ雜氣ニ中リタ  
 ルナリ或ハ胸腹ヨリ起リテ四肢ニ至リ或ハ四肢  
 ヨリ起リテ胸腹ニ至リ遊走シテ定マラス其病漫  
 腫シテ起脹セス其形匡郭ヲ成シテ雲片ニ似タリ  
 其色赤ク丹ヲ塗ルカ如ク迅速ニ蔓延シテ全身ニ  
 及フ幾箇所モ水泡ヲ發シ初發ノ處ハ色モ消シ腫  
 モ減シ先ハ先ヘト蔓延スルモノナリ幸ニ死ヲ免  
 カレ日ヲ經ル片ハ毒漸薄クナリ小疹ニナリテ匡

郭ヲ成サス色モ淡クナルモノナリ格別ノ痛ハ無  
 キヤウナレ氏痛モアルト見ヘテ手觸ル片ハ必ス  
 啼叫ス惡寒發熱昏沉不醒呼吸促迫或ハ渴シ或ハ  
 咳シ或ハ驚搐シ遂ニ腹滿シテ死ス幸ニ生ヲ得ル  
 ハ十中ノ一ナリ第一ニ瀉血若クハ蟻針ヲ行フヘ  
 シ先ツ紫圓ニテ一快利ヲ取り越婢湯加犀角ヲ與  
 フヘシ又正宗ノ升麻葛根湯若クハ消毒犀角飲及  
 ヒ犀角地黄湯ヲ撰用スルコトアリ何方ヘモ紫雪ヲ  
 兼用スヘシ

鵝口瘡ハ瘍科秘録ニ詳ニス初生ハ大便ノ數通スル



ヲ善シトス若シ大便遠クナルキハ鵝口瘡ヲ發ス  
ルコトアリ此病ハ先ツ草兵丸ニテ下シ金鎖ヒヲ水  
ニテトキ筆ニテ傳ヘシ藥氣口舌ハ浸淫スル寸ハ  
粉屑自ラ浮キ上ルモノナレハ指ニ綿布ヲ卷キテ  
之ヲ拭ヒ去ルヘシ

頭瘡ハ瘍科秘録ニ詳ニス初メ頭ニ小瘡ヲ發シ膿ヲ  
釀シ一圓ニ結痂シテ松脂ノ如クニナリ或ハ面部  
ヘモ蔓延ス痂ヲ去レハ乍キ膿ヲ噴出シ又痂ニナ  
リテ永ク愈ヌモノナリ世ニ之ヲ胎毒ト云フ日ニ  
草兵丸ヲ四五粒ツ、與ヘ中黄ヲ瘡上ヘ塗り痂ノ

浮タル所ヲ剪斷シ膿ヲ拭ヒ去テ又中黄ヲスル  
數回ニ至ル寸ハ全愈スルナリ

丹毒鵝口瘡頭瘡應用方

升麻葛根湯 正宗 治丹毒身體發熱面紅氣急啼叫驚搐  
等證。

升麻 乾葛 白芍 柴胡 黄芩 山梔

木通 錢各一 甘草 五分

右八味煎服

消毒犀角飲 同上 治小兒丹毒身熱氣盛啼叫驚搐不寧

犀角 錢 防風 甘草 錢各一 黄連 三分



內科和錢

自準

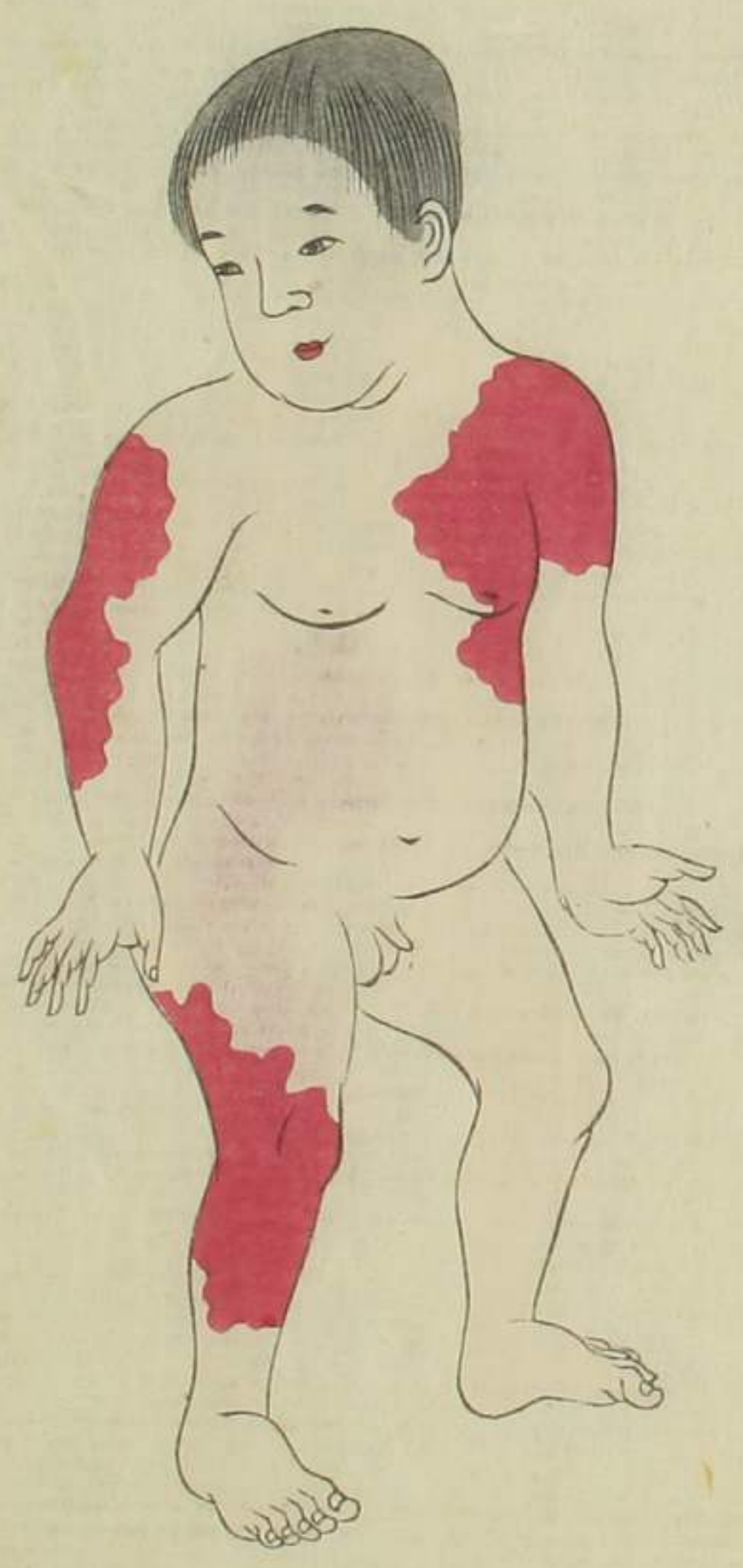
右四味煎服

越婢湯加犀角 犀角地黃湯 紫圓 草兵丸

中黃

Vertical columns of faint text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

丹毒圖



丹毒

〇十一

丹毒



其二圖



小兒

傷寒

痢病

瘧疾

中暈

傷寒ハ其證候及治法モ大人ニ異ナラス然レモ身體  
 脆軟ニシテ正邪分争ノ力弱ケレハ其證モ甚シカ  
 ラス謔語妄言黒胎芒刺不省人事等ニ至ル者ハ少  
 シ痢病ト相反シテ痢病ハ必死ト定メ傷寒ハ必愈  
 ト爲シテ可ナリ其邪ノ傳經モ大人ヨリハ速ナリ



少陽證ニ至リ舌上黄胎ニモナラハ小柴胡湯加大  
 黄若クハ大柴胡湯ヲ投スヘシ必シモ下證ノ盡ク  
 備ルヲ待タス大人同様ニ心會テ謔語黒胎等ノ備  
 ルヲ待ツ寸ハ尖下ニ至ルヲアリ又日數過多ニ至  
 レハ痲證或ハ五疳ヲ併病スルヲアリ方斷ナク注  
 意スヘシ差テ後痿痺ニナリテ歩行スルヲ能ハス  
 或ハ啞シテ言語スルヲ得サル者アリ治法ハ傷  
 寒門ノ治法ヲ撰用シ痲證五疳ヲ併病スルモノハ  
 各病ノ治法ヲ撰用スヘシ  
 痢病ハ必死ト定メテヨキ程ノ者ニテ迅速ノ病ナレ

氏小兒ノコニテ藥ヲ思フヤウニ飲マス又大黄ハ  
 痢病專治ノ藥ナレ氏腸胃脆弱ユエ一二日ノ間ニ  
 腸氣虚脱シテ用ヒ兼ルモノナレハ療治ノ六箇敷  
 モノナリ禁口痢ト云テ一切藥餌ヲ用ヒ兼ルモノ  
 ハ拖牛兒一握大麥一合ヲ適宜ノ水ニテ煎シ蜂蜜  
 ヲ和シテ灌腸ヲ行フヘシ奇驗アリ尚痢病ノ門ニ  
 詳ナレハ宜シク參考スヘシ  
 瘧疾ハ傷寒ト同様ニテ分争ノ力弱ケレハ病證モ亦  
 甚シカラス發シタル寸ノミ床蓐ニ卧シテ勢解ス  
 ル寸ハ遊戯スルモノ多シ是モ永引ク寸ハ五疳ヲ



併病スルモノアリ治法ハ大人ノ通りニテ宜シト  
雖氏永クシテ瘧母ヲ生スルモノニハ消瘴湯奇効  
アリ

中暈ハ即チ中暑ニテ其邪直ニ腸胃ニ中ルユエ必ス  
先ツ吐瀉ヲ發スルナリ小兒ハ腸胃ノ脆弱ナルモ  
ノナレハ其證大人ヨリモ尤劇クシテ其病異ナル  
ニ似タリ醫事小言ニ無辜暴熱ト名ツケテ一種ノ  
病ノヤウニ云ヘリ遂ニ其出典ヲ質問セス頗遺憾  
ト為ス予カ經眼ノ書ニハ見ヘス病源ニ無辜病ヲ  
論シ外臺ニ無辜瘧ヲ載セタレ氏皆別病ナリ無辜

ハ鳥ノ名ニテ晝ハ伏シ夜ノ遊フ鳥ナリ若シ小  
兒ノ衣服ヲ洗浣シ之ヲ露シテ經宿シ此鳥ノ飛過  
スルニ逢ヒ此衣服ヲ小兒ニ著與スルオハ壯熱ス  
ルヲアリ之ヲ無辜病ト云フ無辜暴熱ノ名ハ恐ク  
ハ此ニ本ツキタルナルヘシ然レ氏安帖ナラス其  
病早起或ハ午睡ノ後卒ニ腹痛シ水ノ如ク泄瀉ス  
ルヲ數行ニシテ大熱ヲ發シ煩渴引飲シ脈浮數ニ  
ナリ乍チ驚風ヲ發シ天吊搐搦等竝起リ丹藥針灸  
ニテ一旦鎮マリテモ數驚悸シテ睡ルカ如ク覺ル  
カ如ク其眼或ハ開キ或ハ合シ精神恍惚トシテ須



史ニ又驚ヲ發スルヲ數回下利モ續テ止マス乍チ  
 目窠陷ミ腹カ脱シ四肢逆冷シテ一晝夜位ニ必ス  
 死ス稀ニ死ヲ免ル者ハ痢病ノ如クニナリテ愈  
 ルモノナリ中暑トハ云ヘ氏夜中寢衾ヲ蹴脱テ裸  
 體ニナリ午睡スルモ風窓ノ下ニテ寢衾モ用ヒス  
 冷氣ニ傷ラレテ發スル病ナリ夏日ハ腸胃薄弱ニ  
 テ冷氣侵シ易キモノナレハ寢ル寸ハ長幼ヲ論セ  
 ス腹掛ヘ綿ヲ入テ用ヒ且胸腹ハ必ス寢衾ニテ覆  
 フヘシ  
 治法驚ニハ參連湯奇應凡熊膽ヲ撰用シ且針灸ヲ施

シ驚悸壯熱スル者ハ辰砂五苓散ニ宜シ四肢逆冷  
 等ニ至テハ茯苓四逆湯若クハ附子理中湯若クハ  
 四逆加人參湯ヲ撰用スヘシ

傷寒痢病瘧疾中暍應用方

小柴胡湯加大黃 大柴胡湯 茯苓四逆湯

四逆加人參湯 附子理中湯 辰砂五苓散

消癖湯 參連湯 熊膽







顛門ノ腫起スルハ解顛ノ催シナリ顛陷トテ顛門ノ陷テ坑ヲ成スハ氣血不足ノ證ニテ皆凶候ナリ龜胸ハ胸突起シテ龜ノ如ク龜背ハ背突起シテ龜ノ如キヲ云フニ證ニ分テ治法ヲモ異ニスレト龜胸ナルモノハ必ス龜背ニナリ龜背ナル者ハ必ス龜胸ニシテ固ヨリ一證ナリ所謂偃僂ニシテ藥石ヲ以テ治スルコト難シ蓋シ天稟ニ出ツ小兒五六歳ニ及ンテ腰椎或ハ背椎ノ適突起シ或ハ右へ曲リ或ハ左へ曲リ身體漸漸ニ黃瘦スルモノハ骨病ニシテ難治ニ屬ス或ハ癥結ヲ成シ或ハ流注ニ變シテ

遂ニ死ス龜胸ハ百合丹龜背ハ松葉丹ヲ用フルヲ通治トス五六歳ニ及ンテ脊椎ノ突起スル者ハ先ツ桂朮附湯ヲ與フ癥結ニナリタルハ消癖湯ニ宜シ流注ノ催シハ千金内托散ナリ

解顛龜胸龜背應用方

百合丹得效治龜胸

大黃七錢半 天門冬 杏仁 百合 木通

桑白皮 枳殼 甜葶藶 石膏各五錢

右末蜜丸菜豆大白湯下五七丸加至十九

松葉丹同上治龜背



松花 枳殼 防風 獨活各一兩 麻黃 大黃

前胡 桂心各五錢

右為末蜜丸

六味地黄丸 桂朮附湯 消癖湯 千金內托散

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

小兒

胎黃

尿濁

遺尿

滯頤

諸蟲

胎黃ハ又胎疸氏云フ小兒發黃シテ生ル、ナリ是ハ胚胎ノ時發黃シタルモノト見ユ然レハ胚胎ノ時ヨリ胆汁ハ腸胃ヘ注クモノト見ヘタリ是ニテ胎尿、黒膽液タルナリ炳然トシテ明ナリ此證多ク



ハ死ヲ免レス先ツ草兵丸ニテ下シ茵陳五苓散ヲ  
與ヘテ治セシモノアリ

尿濁十歳以下ノ小兒ハ小便ノ白濁ニシテ米泔ノ如  
ク通スルコトアリ或ハ通シタル時ハ常ノ小便ニシ  
テ須臾ク置ク寸ハ白濁ニ變スルモノアリ蓋シ輕  
重ニヨルヘシ格別ノ害モ無キモノナリ其因五疳  
ニ屬ス消疳飲若クハ弄玉湯ヲ與フヘシ

遺尿ハ素問ニ出ツ又尿床氏云フ灸モ藥モ効ノナキ  
モノトレ氏成長スレハ藥餌ヲ用ヒストテモ自ラ  
止ムモノナリ十二三歳ニシテ止ミ或ハ十四五歳

ニシテ止ミ弱冠以上ニ至レハ皆止ムモノナリ婦  
人ニハ稀ニ三十以上マテ止マヌコトアリ奇方多シ  
ト雖氏効ヲ得ルコト甚稀ナリ吾門ニテハ八味地黄  
丸若シクハ補中益氣湯加牡蠣枯礬ヲ與ヘ臍下一  
寸五分ヘ灸ス壯數ハ其人ノ年ニ從フヘシ下焦虛  
冷ヨリ起ルモノ多シ身體強壯ナリト雖氏熟路ニ  
ナリテ失禁スルモノアリ是ハ紙撚子ヲ太ク撚  
リ中黄ヲ塗リ尿道ヘ成ル犬ケ深ク挿シ置ク寸ハ  
失禁ニ臨ンテ目ヲ覺シ假令遺尿スルモ少ナシ後  
ニハ小便溜ル寸ハ乍チ目ノ寤ルヤウニナリテ治

同斗必録  
○千



スコアリ又夕餐ヲセツ時頃ニ食ハシメ食後ハ湯  
 茶共ニ一切禁シ寝ル寸ハ尿床セヌモノナリ勉メ  
 テ毎日如此スル寸ハ自然ニ遺尿ノ癖ヲ忘ルモ  
 ノナリ尤モ多キ病ニテ治シ難キモノナレハ今數  
 方ヲ載テ試用ニ備フ

滯頤ハ五六歳ヨリ十四五歳ノ病ナリ涎唾多ク流出  
 シテ常ニ止マス手巾等ニテ拭却スルモ又從テ流  
 出シ口邊及頤須臾モ乾クコナク遂ニ赤爛ス是モ  
 疳ニ屬ス消疳飲ニ宜シ又一種涎唾ハ少ナク鼻下  
 赤クナリテ乾燥シ滋ス寸ハ快ク覺ヘ自ラ舌ヲ以

テ患所ヲ舐リ舐ルニ從テ漸漸ニ蔓延シ兩頰及鼻  
 頭ニ至リ舌ノ達スルコ能ハサル片ハ腕ヲ舐テ腕  
 ニテ滋スニ至ルモノアリ即チ滯頤ノ類ナリ已ニ  
 瘍科秘録ニ載ス是モ消疳飲ヲ與ヘ針ニテ瀉血シ  
 或ハ蟻針ヲ施シテ後神水膏ヲ摩擦スヘシ若クハ  
 疥癬膏ヲ塗リテ可ナリ

諸蟲ノ内小兒ハ虻蟲螻蟲ノミ又肛門へ細蟲ヲ生ス  
 ルコアリ痒癢シテ赤爛ニナリ難儀スルモノナリ  
 神水膏ヲ摩擦スヘシ虻蟲ノコハ已ニ其門ニ詳ニ  
 ス吮乳ノ間ハ虻ヲ生セス飲食スルヤウニナリテ



初メテ生スルモノナリ

胎黃尿濁遺尿滯頤諸蟲應用方

千金療小兒遺尿方 外臺

瞿麥 龍膽 石葦 去毛 桂心 皂莢 各二分 炙去皮子

雞腸草 四分 車前子 五分 人參 二兩

右八味擣篩蜜丸如小豆每服五丸加至六七丸

雞腸散 得効 治小兒遺尿不禁多因脬寒或稟受陽氣不足故也

雞腸燒 牡蠣粉 白茯苓 桑螵蛸 各五錢 蒸

粹桂 龍骨 各二錢半

右剉每二錢薑三片棗二枚水煎空心服或為末一錢米飲調服

雞臍散 回春 治小兒遺尿

雞臍脰 一具 雞腸 一具 燒存性 猪脬 一箇 炙焦

右為末一錢酒調下

茵陳五苓散 八味地黄丸 消疳飲 弄玉湯

補中益氣湯加牡蠣枯礬 神水膏 疥癬膏







稱シテ體軟ト云フ身體軟弱ニシテ之ヲ抱クニ頭  
傾キ或ハ垂レテ正シキヲ得ス骨ノ無キヤウニ  
見ユルユエ俗ニ「ホ子ナシ」ト云フ重キ者ハ卧シタ  
ルマヽニテ須臾モ坐スルヲ得ス木偶土塑ノ如  
ク眼ハ開キテモ物ヲ視ルニ非ス聲ヲ立テ、モ喃  
喃トシテ言語ヲ分タス飲食モ外ヨリ養ハレ兩便  
モ告ケスシテ多クハ遺失シ頭ノミ大ニシテ身體  
ハ削瘦シ手足拘急シテ脚ハ左右互ニ又ヲ成シ指  
ハ左ハ内へ倮ミ右ハ外へ反リ或ハ指ヲ口ニ入テ  
舐リ目中了了タラス心ハ癡騷ニシテ親疎ヲ辨セ

ス僅ニ其父母ヲ識ノミ稍輕キ證ト雖モ手指屈伸  
スルノミニテ物ヲ持ツヲ能ハス扶テ起シムルモ  
蹠跚トシテ行クヲ能ハス坐セシムルモ膝ヲ屈ス  
ルヲ能ハス口内含糊ニシテ言フ所ヲ分タス輕重  
共ニ多クハ十五歳ニ及ハスシテ斃ル間ニ三十歳  
ニ及フ者有リト雖モ亦夭折ヲ免レス此證必ス微  
ニ上竄驚搐等ヲ發ス又解顛ヨリ體軟ニ變スル者  
アリ固ヨリ癩ニ屬シ先天ノ遺毒ニシテ不治ナレ  
モ已ムヲ無シハ羚羊飲ヲ與フヘシ

語遲行遲ハ口軟脚軟トハ自ラ異ナリ齒遲髮遲ト同



シフシテ氣血ノ不足ニ因レリ成長シテ氣血充實  
スル寸ハ能ク言ヒ能ク行クヤウニナルモノナリ  
六味地黄丸加鹿茸ニ宜シ

啞ハ血統ヲ傳フルコトアリ吾舊郷ニ一啞婦アリ嫁シ  
テ一男一女ヲ生ルニ皆啞ナリ啞ニ二證アリ一ハ  
生レナカラ耳聾スルモノ曾テ聞ク所ナキユエ言  
フコト能ハスシテ啞ヲ成シ一ハ舌下ノ韞帶幅廣ク  
緊急シテ言語ノ出来ヌ者アリ是ハ韞帶ヲ切テ緩  
メル寸ハ稍言語スルヤウニナルコトアリ語遲ノ證  
ハ啞ニ類似シタル者ナレヒ啞ハ必ス聾シ語遲ハ

必ス聾セス是ニテ區別スヘシ

初生ノ時眼瞼合閉シテ多ク眵淚ヲ流シ松肪ノ如ク  
ニ凝結シ少シモ眼中ヲ視ルコト能ハサル者アリ俗  
ニメシコト云フ多クアルコトユエ輕證ト心得捨置  
ク寸ハ遂ニ失明スルコトアリ早ク洗塵散ニテ數洗  
ヒ更ニ金公水ヲ點スヘシ便秘スル者ハ草兵丸ヲ  
與フ又生レナカラ眼瞼相合シテ開クコト能ハサル  
モノアリ鎖肛鎖陰ノ類ニ同シ之ヲ指ニテ摸索ス  
ルニ眼球ノ全キ者ハ割開スル寸ハ白睛烏睛瞳子  
共ニ燦然トシテ備ハリ平眼トナルモノナリ若シ



眼球ノ扁平或ハ陷下スルモノハ已ニ失明ノ候ニシテ割開スルモ亦益ナシ

五軟語遲行遲髮遲齒遲啞喑閉不能開眼瞼合閉  
應用方

羚羊飲 六味地黄丸加鹿茸 洗塵散 草兵丸  
金公水

小兒

麻疹

麻疹ハ宋ノ初メ單ニ疹ト云ヘリ又虜疹騷疹糠疹瘡子疹子赤瘡等ノ別名アリ本邦ニテハ「カ」ト云フ諺ニ疱瘡ハ面定メ麻疹ハ命定メト謂テ大病ノヤウニ云ヒ傳ヘタレ氏宋元以來ノ醫籍ヲ閱スルニ格別ノ大病氏為サス本邦慶長以來ノ先哲ノ治驗ヲ考ルニ亦篤病ト為サス予モ身自ラ之ヲ患ヒ療治モ二回試ミルニ劇症ナレ氏愈ヤスキモノナリ即一種ノ外邪ニシテ長幼共ニ免ル、  
〇 子六



其病猶痘瘡ノ如ク一度患フル寸ハ再感スルコトナ  
 シ又二十二年廻リニ一度ツ、流行シテ漫リニ  
 流行セサルハ頗ル奇ト謂ツヘシ  
 此病常ニ無ク二十餘年ヲ隔テ、流行スルモノナレ  
 ハ初學ノモノハ見ルコト得ス唯紙上ノ論ヲ心得  
 ルノミユエ苟モ小疹ヲ患フル者ニ對スレハ妄ニ  
 麻疹ナリト名ヲ定ムルコトアリ笑フヘキコトナリ麻  
 疹ハ吾郷黨ヨリ適起ルモノニ非ス麻疹ノ流行ハ  
 古来ヨリ何時ニテモ南方ヨリ起リテ漸次ニ北方  
 へ及フモノナリ九州ヨリ中國ニ至リ中國ヨリ京

攝ニ至ルモノユエ前日ニ沙汰ノアリテ來ルモノ  
 ナレハ醫者ハ勿論素人ニテモ一目シテ麻疹ナル  
 コトヲ知ルヘシ決シテ吾郷黨ヨリ卒ニ起ルモノニ  
 非ス凡ソ流行病ノ大ニ行ハル、ハ麻疹ニモ限ラ  
 ス南方ニ起リテ北方ニ遷延スルモノナリ於七風  
 琉球風ノ類モ皆南方ヨリ北方へ行ハレタリ持リ  
 邪氣ノミニ非ス陽氣ノ起ルモ南ニ始テ北ニ至ル  
 ナリ庭前ノ草木ヲ熟視スルニ枝ノ出テ芽ノ生ス  
 ルモ南ハ先ニシテ北ハ後ル、ナリ花ノ咲モ南ヨ  
 リ始テ北ニテ終ルナリ然レハ麻疹ノ南方ニ始テ



北方ニ及フハ天地自然ノ理ト見ヘタリ

初發ハ憎寒發熱頭痛腰痛骨節疼痛脈浮數ニシテ温  
 疫ノ如ク或ハ欬シ或ハ渴シ或ハ嘔シ或ハ嘔シ或  
 ハ下利シ或ハ衄シ煩悶スルヲ二三日或ハ五六日  
 ニシテ總身ニ赤疹ヲ發ス其形チ稠密痘ノ初發ノ  
 如ク又輕粉生生乳劑ノ瞑眩ニテ赤疹ヲ發スルニ  
 似タリ痛痒ナク又膿ヲ成サス一身悉ク微腫通紅  
 一シテ丹ヲ抹スルカ如ク雙眼ハ血ヲ注クカ如ク  
 ニシテ微シク疼痛ス咽赤シテ痛ニ或ハ聲啞ニ其  
 疹瑣屑ニシテ手ヲ以テ之ヲ摸スルニ碍ラスト雖

此目ヲ斜ニシテ之ヲ視ルニ赤色ノ所ハ隱隱トシ  
 テ皆疹ナリ舌胎多クハ白ク或ハ黃胎黑胎ニナル  
 モアリ飲食ヲ思ハス何物ヲ食シテモ粗糲ニシテ  
 咽喉ヲ下リ難ク或ハ絶食ニナルモアリ疹發シテ  
 後兩三日ヲ過レハ熱解シ疹消シ諸證從テ退キ乍  
 チ輕快ヲ覺フ大略十餘日ニシテ全快スルモノナ  
 リ或ハ餘毒ニテ走馬牙疳ヲ發シテ死シ或ハ勞瘵  
 ヲ誘ヒ出シテ死シ或ハ熱ノ為ニ流産シ或ハ産後  
 未タ愈サルニ之ヲ患ヒ血熱麻毒合併シテ遂ニ死  
 地ニ墜ツルモアリ又長病ニテ疲勞スルモノ之ヲ



患フル寸ハ本病ニ増劇シテ死スルモノ少ナカ  
ラス

治法ハ升麻葛根湯ヲ與フルヲ古今ノ通治トス然レ  
氏熱甚シキ者ニハ大青龍湯神驗アリ葛根湯桂枝  
加葛根湯モ其證ニ從テ用フヘシ煩躁スル者ニハ  
刺絡ヲ施シテ速効アリ疹盡ク發シテ後ハ涼膈散  
加石膏ニ宜シ喘欬スル者ニハ小青龍合麻杏甘石  
湯ヲ用フヘシ其熱不解シテ渴スルモノハ紫白湯  
ヲ與フ若シ衄血ノ數出ルモノハ三黃湯若クハ紫  
胡四物湯若クハ犀角地黄湯ヲ與ヘ紫雪ヲ兼用ト

ス諸症已ニ退キ唯身體痒搔シ小瘡ヲ發スル者ハ  
餘毒未タ盡キサルナリ五物解毒湯ヲ與フヘシ牙  
疳勞瘵産後諸證ノ如キハ各病ノ治法ニ從フヘシ  
世ニ檉柳ヲ麻疹ノ聖藥トナス者アリ蓋シ和方ナ  
リ高階家ニテハ之ヲ專用シテ何方ヘモ加ヘテ用  
ユ麻疹ニハ食禁ノ多キヲニナリテ有レ氏畢竟希  
有ノ病ニテ命定ト云ヒ傳フル程ユエ食禁ヲ謹ミ  
タルモノナルヘシ予カ經驗シタル所ニテハ金鎗  
魚松魚鱸魚鱒魚及鳥肉油膩ヲ禁スルノ外脂少キ  
魚并ニ菜蔬ノ類ハ總テ食シテ可ナリ



麻疹應用方

升麻葛根湯 活幼 治傷寒痘瘡麻疹憎寒壯熱

葛根 三錢 升麻 白芍 甘草 各二錢 生薑

右五味煎服

大青龍湯 葛根湯 桂枝加葛根湯 三黃湯

小青龍合麻杏甘石湯 柴白湯 紫物湯

犀角地黄湯 涼膈散加石膏 五物解毒湯

紫雪 檉柳

小兒

痘瘡

痘瘡ハ古名ヲ豌豆瘡ト云フ初テ病源ニ見ユ宋ノ頃

ヨリ痘疹ト稱ス痘瘡ト云フハ輓近ノナリ入門

ニ太古無痘疹周末秦初乃有之ト云ヒタレ氏明徴

ナシ世ニ後漢ノ光武帝建武中ニ南陽ヲ征シ虜ヲ

伐テ士卒皆瘡ヲ患フ之ヲ虜瘡ト名ク即痘瘡ノ始

ナリト云ヒ傳フレ氏後漢書ニ此事ヲ載セス肘後

方ニ比歲有病天行發斑瘡頭面及身須臾周匝狀如

火瘡皆戴白漿隨決隨生不即療劇者數日必死療得



差後瘡癩紫黯彌歲方滅此惡毒之氣也世人云以建武中於南陽擊虜所得仍呼為虜瘡諸醫參詳作療用之有效ト云ヒ又本草綱目升麻ノ條ニ以建武中ノ句ヨリ以下ノ文ヲ改作シテ晉元帝時此病自西北流起名虜瘡トアリ二書ヲ參考スルニ建武ハ東晉元帝ノ建武ニシテ後漢ノ建武ニ非ス同シ年號ユエ誤タルモノナルヘシ然レハ痘瘡ノ漢土ニ入りタルハ東晉ヲ權輿トス是ヨリ續ヒテ流行シタルト見ヘテ病源ノ豌豆瘡外臺ノ天行發斑瘡ノ類皆痘瘡ノトナリ千金外臺ニ其療法ヲ載セタル氏

疎略ニシテ備ハラス本邦ニテハ聖武帝天平七年乙亥春始メテ豌豆瘡行ハレ天死スル者多シト續日本紀ニ見ユ天平七年ハ唐ノ玄宗開元廿三年ニ當リテ數渡海ノ有リタル時ユエ彼ノ土ヨリ傳入シタルモノナルヘシ阿蘭ニテハ紀元六百二十二年ニ初メテ起レリト云フ和漢及阿蘭共ニ古ハ無キ病ニテ外國ヨリ流傳シタルモノト見ヘタリ蕃痧ト云ヘル病本邦ニハ無キ病ナルニ文政五年壬午ノ秋及ヒ安政五年戊午ノ秋米利堅國ヨリ流傳シタルト同シ



痘毒ハ一種ノ天行傳染病ニシテ即外邪ナリ宋元以來或ハ胎毒ト為シ或ハ慾火ト為シテ人身固有ノモノト心得タルハ大ナル誤ナリ若シ固有ノ者ナラハ假令種痘スルモ其胎毒ノ多キモノハ必ス凶痘ヲ發スヘキノ理ナレ氏必ス輕痘ヲ發シ又近年牛痘ヲ種テ天然痘ヲ免ル、ニ因テ觀レハ固有ノ胎毒ニ非ルヲ明ナリ

痘ニ輕重アルハ其人ノ稟賦ニ異同アルカ故ナリ譬ハ酒ニ下戸上戸アリ漆ニ感スル者ト感セサル者ト有力如シ痘ノ重キ者ハ感シヤスキ稟賦ニシテ

痘ノ輕キ者ハ感シ易カラサルノ稟賦ナリ稟賦ハ血統ヲ傳フル者ニテ逆痘ヲ患ヒタル父母ノ子ハ多クハ亦逆痘ヲ患ヒ順痘ヲ患ヒタル父母ノ子ハ多クハ順痘ヲ患フルモノナリ

痘瘡ノ經過ハ必ス常期アリテ他病ト自ラ異ナリ第一日二日三日之ヲ初熱ノ日期トシ俗ニ「シヨヤミ」ト云フ第四日五日六日之ヲ見點ノ日期トシ其内ノ第六日ヲ出齊ト名ツケ俗ニ「テソロヒ」ト云フ第七日八日九日之ヲ起脹ノ日期トシ回漿ハソノ中ニアリ俗ニ「ツウミ」ト云フ第十日十一日十二日

内科 秘録 卷十三 三十一



之ヲ灌膿ノ日期トシ俗ニ「ホンウミ」ト云フ灌膿ス  
レハ痘ノ事ハ終リテ安心スルエ俗家ニテハ痘  
神ノ壇ヲ去リ酒湯ヲ痘兒ニ灌キ糕ヲ舂テ賀筵ヲ  
設クツヲサカユト云フ第十三日十四日十五日之  
ヲ收靨ノ日期トス凡ソ痘ノ重キ者ハ諸證ノ經過  
遅クシテ常期ニ後レ輕者ハ諸證ノ經過速ニシテ  
常期ニ先ツモノナリ  
痘性ニ二證アリ其粒ノ小ナルモノハ高ク凸起スル  
ト急ニシテ廣ク展延スルニ緩ナリ回漿スルニ及  
ンテ皮厚フシテ堅シ稀ニハ膿ヲナサス回漿ノマ

マ堅ク收靨スルモアリ經過速ニシテ常期ニ先ツ  
ツモノナリ予カ門私ニ名ケテ小顆痘ト為ス其粒  
ノ大ナルモノハ廣ク展延スルト急ニシテ高ク突  
起スルト緩ナリ回漿スレハ皮薄ク軟ニシテ破レ  
易シ灌膿スレハ脂ヲ噴出シ看病人ニ傳染シテ瘡  
ニナルモノナリ經過常期ニ後レテ收靨シ難キモ  
ノナリ私ニ大顆痘ト名ツク世人徒ニ大顆痘ヲ吉  
トシテ小顆痘ヲ凶トス大ナル誤ナリ大顆痘少シ  
ク發スル寸ハ粒粒磊落トシテ悦目可愛ニ似タリ  
ト雖氏多ク發スル寸ハ必ス凶痘ニシテ救フ不能



ハス小顆痘ハ少ナク發スル寸ハ勿論輕順ナリ假令多ク發スルモ死ニ至ル者尠ナシ

宋ノ錢乙陳文仲等初テ痘疹ヲ辨シ治法モ亦頗ル備レリ然レ氏錢氏ハ專ニ寒涼ヲ主トシテ微シク瀉ニ偏シ陳氏ハ專ラ温熱ヲ主トシテ微シク補ニ偏セリ之ニ續テ痘疹ヲ論スルモノ明ノ魏直龔廷賢管穉翁仲仁孫一奎聶久吾余正徐謙清ノ朱鳳台費啓泰翟良馮兆張張遜朱惠明葉大椿等竝起リ其著書啻汗牛充棟ノミナラス或ハ錢氏ニ本ツキテ瀉ニ失シ或ハ陳氏ニ本ツキテ補ニ失シ中道ヲ得ル

ルモノ幾ント希ナリト雖氏其專心盡力ノ如キハ至レリト謂ツ可シ然レ氏種痘術ノ全効ヲ收ムルニ如カス近年又牛痘種法ヲ渡リテ後ハ保赤ノ術此右ニ出ルモノナシ所謂上工治未病ト云ハ即チ是ナリ於是補瀉得失ノ論寂然トシテ止ミ痘科多少ノ書モ遂ニ高閣ニ束又然レ氏至愚ノ者未タ其利害ヲ決スルヲ能ハス其子弟ヲシテ天然痘ニ罹ラシムルモノアリ悲歎スヘキナリ痘瘡ハ幼小ノ時ノ患ヘテ再感ノ無キモノユエ人小兒ニ限ル病ノヤウニ心得テ居レ氏實ハ然ラ



ス若シ麻疹ノ如ク二十年ニ一度三十年ニ一度行  
ハル、モノナラハ長幼共ニ患フルナルヘシ痘瘡  
ノ無キ邦ヨリ痘瘡ハアル邦ニ到ル寸ハ必ス痘瘡  
ニ感ス肥前大村ハ痘瘡ノ無キ所ニテ其士人江戸  
ヘ勤番ニ當ル寸ハ必ス種痘ニテ来ル若シ種痘セ  
スシテ出ル寸ハ必ス天然痘ニ感シテ死スルト云  
フ痘ノ輕重ハ其人ノ稟賦ニ因ルト雖氏小兒ハ大  
人ニ比スレハ稍輕ク大人ハ小兒ニ比スレハ殊ニ  
重シ今種痘ヲ試ルニ初生ハ感シ難ク二三歳ニ至  
レハ十針ニテ六七ハ感シ六廿歳以上ハ十針盡ク

感スルモノナリ是亦長幼ニ因テ輕重ヲナスナリ  
蓋シ皮膚ノ敏鈍ニ因ルナルヘシサレハ用藥モ大  
人ヲ療治スルノ方ヲ運用シテ善シトス然レ氏諸  
家治痘ノ方ヲ見ルニ皆新方奇劑ノミ蓋シ痘ハ小  
兒ノミ患テ非常ノ病ナレハ好ンテ新奇ヲ要スル  
ナル可シ又先哲ニ古方ヲ運用シテ痘ヲ療治スル  
者アリ卓見ト謂ツヘシ予モ亦是ヲ私淑シテ古方  
ヲ專用シ古方ノ闕ク所ハ後世方ヲ折衷シテ是ヲ  
補フ

發熱三日



初熱始熱序熱氏云フ順痘ハ寢テ後或ハ午睡シテ  
 不圖發熱シ脈浮數ニナリ微ニ驚搐シ自汗出テ面  
 色赤ク腰脚痿弱シテ起ツテ能ハス或ハ吐瀉或ハ  
 譫語シテ鬼狀ヲ見ルカ如ク舌白胎ニナリテ渴シ  
 或ハ頭痛或ハ嘔噎或ハ呵欠等アリテ宛モ外感ノ  
 如クニ見ユルモノナリ唯常ノ外感ヨリハ驚搐ス  
 ルヲ多キヤウニ覺ユ或ハ驚風ヲ發スルモアリ熱  
 ハ熾盛ニシテ早ク醒ムルヲ吉トス第三日ノ日晡  
 ニ至テ熱解シ口吻ノ邊へ兩三顆或ハ五六顆見點  
 スル位ナレハ必ス輕痘ナリ何ホト熱ハ強クテモ

見點ノ遲キハ心配ニナラヌモノナリ先ツ葛根湯  
 加防風若クハ桂枝加葛根湯へ防風ヲ加へテ專ラ  
 ニ發表スヘシ便秘スル者ハ草兵丸ニテ下スヘシ  
 凡ソ痘瘡ハ發熱ノ時一ト先ツ其毒ヲ下スヲ緊要  
 トス見點ノ後ハ灌膿セサレハ毒ハ解サヌエ何  
 程下シテモ其毒ノ減スルヲナシ却テ起脹ノ熱ヲ  
 折キテ害ヲ招クコトアリ  
 夜ノミ發熱シテ晝ニナレハ解シ能ク遊戯シテ飲食  
 二便モ常ニ異ナラス第三日ニ至テハ了了トシテ  
 平生ニ復シ痘瘡ニ非スト思フニ稀疎ト見點スル



ハ至極ノ輕痘ト知ルヘシ藥ヲ用ヒスシテ可ナリ  
 腹痛腰痛支節煩疼シ壯熱疫ノ如ク脈浮緊數ニシテ  
 舌上黑胎ニナリ乾燥シテ芒刺ヲ生シ煩渴シテ水  
 ヲ飲ミ面目赤キ丹ニテ染ムルカ如ク狂躁妄言  
 シテ漫リニ旁人ヲ罵詈シ親疎ヲ避ケス疹子隱隱  
 トシテ皮下ニ陥伏スルモノハ尤モ逆痘トナス此  
 證幼稚ノ者ニ少ク十歳以上ノ者ニ多シ難治ナリ  
 ト雖氏先ツ草兵丸ヲ以テ下シ大青龍湯ヲ與フヘ  
 シ効ナキ寸ハ黃連解毒湯加大黃ヲ投シ紫雪及犀  
 角屑ヲ兼用トス若クハ黃連解毒合白虎湯ヲ用フ

ヘシ

熱ハ強カラス脈モ沉微ニシテ浮數ナラス日夜沉沉  
 トシテ昏睡シ外ニ苦シム所ナク唯飲食ヲ思ハサ  
 ルモノハ毒壅ノ致ス所ニシテ惡候トス漫ニ氣虚  
 ト為シ或ハ陰證ト為シ誤テ參附ヲ用フヘカラス  
 先ツ草兵丸ヲ以テ下シ大青龍湯ヲ與フヘシ  
 痘前ノ發驚ハ吉兆ナリト云ヒ傳テアレ氏必然ト為  
 シ難シ發驚スル程ノモノハ熱モ亦強クシテ痘モ  
 亦稠密ナルモノアリ初熱ニ發驚シテ死スルモノ  
 モ亦少カラス驚ハ急慢二證氏參連湯若クハ熊參



湯若クハ三黄湯加辰砂ヲ撰用スヘシ

見點三日

放苗放點見放報點見標氏云フ第四日ヲ見點ノ初  
ト為シ熱盡ク解シテ見標スルハ必ス至極ノ輕痘  
ナリ順痘ト雖氏多クハ發熱ノ内ヨリ少シハ見點  
スルモノナリ痘ハ尖圓ニ見ユレ氏顯微鏡ヲ以テ  
熟察スルニ針ニテ突タル程凹ニナリテ有リ是自  
ラ諸疹ト異ナル所ナリ

順痘ハ色紅活ニシテ起脹シ易ク午時ニ視レハ朝ヨ  
リ大ニナリ日晡ニ見レハ午時ヨリモ大ニナリ一

顆ツ、參差トシテ連ナラス其形千大小磊落ニシ  
テ堅ク發熱諸證盡ク退キ飲食稍進ム者ナリ桂枝  
加葛根湯新加防風ニ宜シ

順痘形色

硬突	堅實	尖鬆	稀疎	疎肥	稀朗	高聳
參差	圓整	尖圓	凸起	輕鬆	尖聳	約束
顆粒分明	磊落如珠	顆粒鬆朗	起勢勃勃	明潤光活	淡紅潤澤	完固
		光彩	粗緊	右痘科書ニ載スル所ナリ今鈔録シテ以テ參考ニ 備フ以下舉クル所ノ形色亦同シ		



逆痘ハ第四日五日ニ至ツテモ壯熱微シモ減セス或  
 ハ昏睡シ或ハ狂躁シ疹子一齊ニ湧出シ稠密ニシ  
 テ疥癬ノ如ク痱子ノ如ク又一段甚シキハ細碎ニ  
 シテ蠶種ノ如ク直ニ視ル寸ハ糝糊トシテ辨スヘ  
 カラス斜ニ視ル寸ハ僅ニ認ムヘク或ハ陥伏シ淡  
 黒ニテ細ニ點スルカ如ク隱隱トシテ認ノ難ク或  
 ハ其色淡白ニシテ肉色ト異ナラス或ハ赤キモ赤  
 小豆椒紅等ノ如クニシテ紅活ナラス或ハ痘ト肉  
 ト連リテ一圓ニ赤クナリ或ハ紫斑黒斑ヲ發シ小  
 ナル者ハ麻子ノ如ク大ナル者ハ豆ノ如ク或ハ青

藍斑ノ出ルモ有リ斑斑トシテ打撲ノ如ク見ユル  
 モノナリ或ハ雲斑トテ丹毒ノ如クニ發スルモア  
 リ或ハ衄血或ハ牙衄或ハ吐血或ハ下血シ或ハ舊  
 キ瘡痕及灸瘡ノ自潰シテ出血スルモアリ皆是毒  
 壅シテ瘀血ヲ釀シ成ス者ナレハ必死ノ候トスレ  
 氏疹子陥伏スル者ハ大青龍湯壯熱稽留シテ腹滿  
 スル者ハ大承氣湯發斑ニハ玄參升麻湯加犀角諸  
 出血ニハ紫物湯若クハ犀角地黄湯若クハ犀角地  
 黄合三黄湯若クハ桃核承氣湯及ヒ洎夫蘭ヲ撰用  
 スヘシ



逆痘形色

繫密 瑣屑 細碎 如麸 瘡 如痲 如疹

如疥 淡白 灰白 暈淡 如漆瘡 如蠶種

如蚊跡 如蚤斑 如毛刺 參伍相連 破碎

蒙頭鎖項 頭項如鎖頭 斷腰無脚 腰殊多如斷

如猪肝 如赤米飯 痘色與肉色無異者

發斑ハ肩背及腋下へ多ク出ルモノナリ紅斑ハ順痘

ニモ出テ、灌膿ノ頃ハ自ラ消テ害ヲナサス出血

モ九竅出血ト謂テ希ニハ耳ヨリモ目ヨリモ血ノ

出ルナリ殊ニ惡證ト為ス初熱ノ時衄血スルハ

大害ヲ成サス

第六日ヲ出齊ト云フ足心へ見點スルヲ出齊ト定ム

レ氏熱尚未夕解セサルモノハ痘未夕出テ盡キサ

ルノ候ニテ假令足心へ出ルモ出齊ト為スヘカラ

ス見點ノ時疹ヲ挾ミ稠密ニ見ユルモノ有リ出齊

ノ期ニ至レハ疹ハ自ラ消シ痘ノミニナリ思ノ外

ノ順痘ニナルナリ

起脹三日

發秀發脹起頂氏云フ第七日ヲ起脹ノ始ト為ス發

熱見點ノ内ハ痘ノ負數未定ユエ吉凶氏決シ兼又

辨別必錄

卷十三

四

辨別必錄



レ氏出齊ノ後ハ順逆死生ヲ定ルニ足レリ可生者  
 ヲ順痘ト為シ必死ノ者ヲ逆痘ト為ス死生ノ未決  
 者ヲ險痘ト云フ順痘ハ藥ヲ用ヒサルモ自ラ治シ  
 逆痘ハ藥ヲ用フルモ必ス死スル者ナレハ療治ス  
 ルモ勞而無功ノミ苦心盡カシテ療治スヘキハ險  
 痘ナリ順痘ニテモ出齊スルニ及シテ一旦ハ痘頂  
 凹ミ稍行漿スレハ充滿シテ扁平ニナリ尖銳ニナ  
 ラス是諸瘡ト異ナル所ナリ此時痘根愈紅ニナリ  
 テ臙脂ニテ輪ヲ畫クカ如シ之ヲ紅暈ト云フ逆痘  
 險痘ハ行漿ニ臨シテ紅暈稍散シテ淡紅ニ變ス能

ク眼ヲ此ニ注シテ吉凶ヲ知ルヘシ

順痘ハ先ツ面部ヨリ起脹ス先ツ出ル者ハ早ク起リ  
 後ニ出ルモノハ遅ク脹リ漸次ニ行漿シ顆粒肥圓  
 ニシテ扁平磊落トシテ堅實ナリ頂ハ白クシテ潤  
 ヒ根ハ紅ニシテ堅ク起勢勃勃トシテ微ニ發熱シ  
 飲食ニ便如常精神爽健ニシテ唯痘痛ヲ患フルノ  
 ミ桂枝加黃芪湯新加防風ニ宜シ

順痘形色

圓滿光澤 充滿起頂 堅淨粗圈 堅實不破  
 頂峻肥白 頂白根紅 紅白兩分 根脚紅活



頂窠白潤 潤澤光明 如一顆珍珠在胭脂

險痘ハ起脹スルヲ遅ク面部ハ四肢ヨリモ特ニ後レ  
天庭印堂及ヒ太陰太陽ハ枕ニテ壓シ平塌ニナリ  
微モ振ハス但横ニ展延シ二三顆或ハ五六顆ツ、  
一片ニナリテ顆粒ヲ分タス痘頂陷ミテ皺ヲ生シ  
色ノ灰白ナルヲ灰陷ト云ヒ紫ナルヲ紫陷ト云ヒ  
黒キヲ黒陷ト云フ紫陷黒陷モ灌膿スレハ自ラ膿  
ニ化スルナリ若シ膿ニ化セサレハ收靨ノ項ニ至  
テ痘疔ニ變ス紅暈漸減シテ薄クナリ微シク行漿  
スレ氏水漿少ナク皮薄クシテ破レ易ク痛ミ少ク

シテ痒ミ多ク或ハ抓破シ身熱因循トシテ日夜解  
サス唯昏睡シテ飲食ヲ思ハス先ツ難治ナレ氏必  
死ト爲スヘカラス一種痘速ニ起脹シ嬌紅油光ト  
テ色モ好ク潤澤モアルヤウニ見ユル者アリ然レ  
氏皮薄クシテ根脚不固行漿モ淺ク痘ニ應シテハ  
漫腫殊ニ多ク所謂痘不腫而肉腫ト云フモノニテ  
後多クハ内攻シテ死スル者ナリ是モ亦險痘ニ屬  
ス起脹ノ日期ニ至テハ第一ニ托膿ヲ專要トス桂  
枝加黃芪湯新加防風ヲ與フヘシ參芪鹿茸湯千金  
内托散神功内托散内解散亦撰用シテ可ナリ何方



ヲ用フルニモ底野<sup>チ</sup>邊<sup>カ</sup>ヲ兼用スヘシ  
 托膿ノ藥品ニ六種アリ一ハ反鼻ニハ鹿茸三ハ穿山  
 甲四ハ人參五ハ黃芪六ハ附子ナリ反鼻劑ハ桂枝  
 加黃芪湯ハ防風反鼻ノ二味ヲ新加スルヲ妙トス  
 反鼻ノ痘瘡ヲ治スルハ漢土ノ書ニ見ヘサレ氏  
 本草綱目ニ癩疾及諸惡瘡ヲ治スルハ載セ白花  
 蛇ヲ托痘花蛇散ト名ケテ托膿ニ用ヒタルハ有リ  
 是等ニ因テ考フルニ反鼻ニ托膿ノ効アルハ必然  
 ナリ反鼻ヲ痘瘡ニ用フルハ古方家以來ノハニテ  
 先師南陽先生特ニ之ヲ專用セリ吾家多年此品ヲ

歷驗スルニ其効粲然トシテ著シ反鼻ヲ用フルノ  
 起原ヲ考ルニ伯州散ハ石原伯耆守ノ傳ヘタル方  
 ニテ癰疽ヲ治スルノ藥ナリ其神功アルヲ以テ觀  
 レハ蓋シ古ノ遺法ナルヘシ古方家之ヲ葛根湯ニ  
 加ヘテ用ヒタルハ人為ニ非ス造物主ノ人ニ教テ  
 險痘ヲ救ハシメタルヘシ葛根湯ハ發汗ノ劑  
 ニシテ即痘毒ヲ逐フニ宜シ灌膿ノ時ニ用ヒテモ  
 害ナシト雖ヒ葛根麻黃ハ解肌疎肉ノ物ナレハ黃  
 芪ノ固表ヲ用フルヲ勝レリトス防風ハ諸瘡瘍ノ  
 毒ヲ逐フノ聖藥ト為ス因テ予ハ私ニ桂枝加黃芪



湯へ反鼻防風ヲ加へテ専用ス痘ト癰疽トハ大小ノ異ナルノミニテ同シク瘡瘍ナレハ治方モ亦異ナラスサレハ灌膿ノ日期ニ至テハ虚實ヲ論セス鹿茸穿山甲反鼻ハ勿論入參黃芪附子ノ類ヲモ與へテ微シモ害ナシ鹿茸ヲ痘ニ用ル<sub>ト</sub>神農本經及<sub>レ</sub>本草綱目ニモ見ヘス聶久吾以來ノ<sub>ト</sub>ニ覺ユ然<sub>レ</sub>氏養血益陽シテ癰腫ヲ治スルモノナレハ托膿ノ効ヲ存スル<sub>ト</sub>必然ナリ

逆痘ハ發熱見點ノ間ニ多クハ死ス幸ニ免<sub>レ</sub>テ日ヲ延キ起脹ノ期ニ至<sub>レ</sub>ハ諸證險痘ヨリモ一等重ク

シテ痘尚皮下ニ陥伏シ或ハ微シク發スルモ紫陷黒陷ニナリ又賊痘ト云フ者アリ此<sub>レ</sub>彼ニ出テ速ニ大ニナリ其形小瘡ノ如ク皮薄フシテ潰<sub>レ</sub>易ク或ハ瘡痕ヨリ出血シ或ハ九竅ヨリ出血シテ舌ハ紫黯色ニナリ或ハ精神錯亂シテ狂ノ如ク親疎ヲ分タス反覆顛倒シテ須臾モ安靜ナラス或ハ謔語妄言四肢厥冷脈沉微ニナリ或ハ煩渴引飲虚里煽動シ遂ニハ衝心シ或ハ痲ヲ發シテ死ス治法ハ發熱三日逆痘ノ治法ヲ撰用スヘシ

逆痘險痘形色



塌陷 頂陷 灰陷 紫陷 黑陷 水泡寬軟  
 紫泡 痒塌 黑紫 暈枯 焦枯 平塌不振  
 自如臍粉 若如枯骨 慘悴如秋草經霜 皺限  
 慘暗不明 肉腫 痘不腫 枯澀 黑滯 乾空

灌膿三日

又貫膿ニ作ル又成實ト云フ第十日ヲ灌膿ノ初ト  
 シテ至極大切ノ時ナリ第九日マテハ起脹ノ日期  
 ヲエ假令險痘ニテモ少シツ、起脹シテ其毒表へ  
 出ルユエ多端ノ變證ハ發セサレ氏灌膿ノ日期ニ  
 入テ灌膿ノ力乏シキ寸ハ其毒内攻セント欲シテ

惡證竝起リ千態萬狀ヲ見スナリ愚按スルニ假令  
 ハ十分ノ痘毒第十日ニ至リ表へ出ル者四分裏ニ  
 在ル者六分ニシテ灌膿ノ力絶ル寸ハ其毒多キ方  
 へ引カレテ必ス内攻ス譬ハ秤衡ノ一分ニテモ重  
 キ方へ傾クカ如シ即痘毒ノ引カナリ  
 順痘ハ十分ニ膿ニ化シ頂白フシテ一滴ノ蠟ノ如ク  
 圓滿ニシテ光澤ヲ生シ堅フシテ破レス紅暈根脚  
 ヲ周匝スルヲ臍脂ヲ以テ畫クカ如ク唯痛ミテ痒  
 ミナク時ニ肉ノ漫腫スルヲ浮腫ト云フ之カ為ニ  
 眼閉ツレ氏眵淚出テ鼻塞リテモ涕洟滴タリ微熱



アレハ飲食益進ニ神思爽快ニナリ兩便常ノ如ク  
聲低小ニナレハ啞スルニ非ス或ハ咳嗽ノ出ルモ  
アリ或ハ飲食ノ咽<sup>ハセ</sup>噎スルモアリ或ハ口舌へ塩氣  
ノ染ルモアリ皆害アラス藥ヲ用フルニ及ハヌ位  
ナレハ治法ハ桂枝加黃芪湯新加防風ヲ與フヘシ  
順痘形色

淡紅潤澤 肥圓光澤 尖圓明潤 堅實不破  
紅活明潤 紅如桃花 頂窠白潤 潤澤光明  
硬突尖圓 漿膿厚殼  
險痘ハ起脹ノ日期已ニ過キ灌膿ノ力尚弱フシテ痘

毒外へ達スルヲ能ハス紅暈稍散シ痛モ亦從テ去  
リ忽癢痒ヲ生シ痘微シモ起ラス面部ハ殊ニ塌陷  
シテ皮薄ク乾燥シ慘暗不明トテ煤ケタルヤウニ  
見ヘ枕ニテ壓タル所ハ一圓ニ潰レテ一片ノ薄痂  
ヲ成シ手足ノ痘ノ大ニ起脹シタルヤウニ見ユル  
所ハ皆水泡紫泡ニテ皮薄ク漿清ク潰レ易シ之ヲ  
空歡喜又空倉無膿ト云フナリ内攻ヲ催ス寸ハ癢  
痒益甚シク自ラ顔ヲ抓破シ手ヲ押ユレハ兩足ヲ  
合セテ擦リ手足共ニ押ユレハ顔ヲ枕へ摩リ著ケ  
皮ノ剥タル跡ハ血モ多ク出テス忽チ乾燥シテ焦



黑色ニ變シ眼封モ消シテ目ヲ開キ唯唇口硬ク腫  
 レ不時ニ努力シテ大便ヲスル狀ノ如ク或ハ寒戰  
 咬牙或ハ泄瀉或ハ牙疳口臭ヲ發シ内攻愈深クシ  
 テ灼熱ヲ發シ煩渴シテ水ヲ飲ミ氷ヲ啖ヒ或ハ乾  
 嘔舌上黒胎ニナリテ乾燥シ虚里築動ヲ起シ心下  
 急滿シ或ハ肝臟焮腫シテ右脇下へ塊癍ヲ生シ喘  
 咳聲啞等ノ諸惡證竝起リ遂ニ衝心シテ死ス死ス  
 ル者ハ多クハ第十二日ノ前後ニアリ已ニ内攻ス  
 ル者ハ百死無一生ト雖氏寒戰スル者ハ小柴胡湯  
 若シ泄瀉スル者ハ柴苓湯又ハ參苓白朮散若シ心

下急滿スル者ハ大柴胡湯若シ乾嘔スル者ハ半夏  
 瀉心湯若シ煩渴スル者ハ柴胡加石膏湯又ハ柴白  
 湯若シ喘咳氣急スル者ハ竹葉石膏湯ヲ撰用スヘ  
 シ

險痘形色

癢塌 陷下 如火刺 如湯泡 空倉無膿  
 擦破無膿血 外剝内攻

收靨三日

順痘ハ第十三日ニ至レハ必ス收靨ス前ニ云フ通り  
 小顆痘ハ經過早ク收靨シ易クシテ灌膿三日ノ内



ヨリ半ハ收靨スルモノナリ少シモ脂ヲ噴カスニ  
 結痂スル者ナリ一種旱痘ト云フアリ種痘新書ニ  
 見ユ俗ニ云フ「イシモノ」ナリ回漿スレハ白ク玲  
 瓏トシテ珠ノ如ク堅實ニシテ破レス灌膿セスニ  
 速ニ收靨スルモノナリ

逆痘モ内攻ヲ免ル、寸ハ天庭ノ邊ヨリ脂噴キ出シ  
 凝結シテ堆ク松脂ノ如クニナリ皮ノ剝タル跡モ  
 稍結痂ニナリ潰殘リタル水泡ハ渾濁ニナリ稀膿  
 ニ化シ胸上及ヒ髮中ノ後レタル痘モ始メテ起脹  
 シテ又稀膿ニ化シ痒癢モ去リ音聲モ發シ飲食モ

進ミテ回春ヲ得ルモノアリ然レ氏其毒十分ニ膿  
 ニ化セサレハ後必ス痘癰ヲ發ス

險痘逆痘ニテ灌膿セサルモノモ收靨ノ期日ニ至ル  
 寸ハ一旦癢痒煩渴等ノ諸證退キテ生路ヲ得ルニ  
 似タレ氏數日ノ後餘毒起テ再ヒ發熱シ或ハ痘疔  
 ヲ發シ或ハ走馬牙疳ヲ發シ或ハ流注ヲ發シ或ハ  
 癩ヲ發シ或ハ慢驚風ニ成リテ死スルナリ

痘疔ハ矢張痘毒ニシテ常ノ疔瘡トハ判然トシテ自  
 ラ異ナルナリ初メ痘ノ紫陷黒陷シタルモノ收靨  
 ノ日期ニ及ンテ焮腫ヲ起シ稍臭水ヲ流シ瘡心自



ラ腐肉ニナリ田螺ノ肉ノ如ク脱然トシテ抜ケル  
 モノナリ其形頭大ニ尾尖リ短キモノハ二三分長  
 キモノハ六七分アリ痘疔ハ惡證ナレ氏其兒若シ  
 氣力續ク寸ハ餘毒疔ノ瘡口ヨリ漏テ稀ニ生ヲ得  
 ルトアリ痘癰ハ多クハ吉兆ナレ氏後ニ筆磬ニナ  
 ル者少カラス詳ナルトハ瘍科秘録ニ載ス

臭爛痘ハ又爛痘氏云フ大顆痘ノ稠密ニ出テタル者  
 皮薄漿清ナレ氏幸ニ内攻セス灌膿ノ日期ヲ過キ  
 テ稍渾濁ニナリ稀膿ニ變シ潰レ易クシテ蒲團ニ  
 粘著シ又看病人ノ手ニ著キテ小瘡ニ變シ介抱ニ

困リ蕎麥粉ヲ糝スルヤウニナルモノナリ  
 倒靨ハ灌膿ノ日期ニ及テ七分ハ痘功ヲ成シタルト  
 思フ頃看病ヲ麤末ニシテ風寒ヲ感冒シ或ハ飲食  
 ニ傷ラレテ泄瀉不止卒ニ收靨シテ焦黑色ニ變ス  
 ルトナリ眞ノ收靨ニ非レハ續テ内攻ノ諸證ヲ起  
 シテ死スルトアリ然レ氏本灌膿スヘキ證ニ急  
 ニ内托ノ峻劑ヲ多服スル寸ハ痘復振テ全功ヲ收  
 ムヘシ

收靨スルニ及ンテ眼眶ノミ腫消セスシテ開カサル  
 ハ痘毒ノ眼ニ入タルナリ眶腫テ視ルト甚難ケレ



氏強テ之ヲ視ルニ烏睛ハ痘ヲ發シ已ニ潰ヘテ膿  
 ヲ含ミ白睛ハ赤絡ニテ血ヲ注クカ如シ若シ意ヲ  
 注セス日久シクシテ自ラ眼ヲ開クニ及ヒテハ既  
 ニ盲テ烏睛ノ昏暗ニナリテアルモノナリ  
 鼻ノ塞リタルハ乳ヲ吮フニ便ナラス又落痂ノ後ニ  
 鼻孔狹窄ニナリ或ハ鎖鼻ニナル者アリ世人梨子  
 ヲ削テ尖シノ竅ヲ通スル法アレ氏一時ノ姑息ニ  
 シテ鎖鼻ヲ防ク不能ハス先ツ潤肌油ヲ塗テ潤シ  
 結痂ヲ去リ全愈スル後ハ鉛管ヲ挿入シ置クヘシ  
 良痘ノ結痂ハ厚クシテ堅ク其痕淺シ凶痘ノ結痂ハ

薄クシテ軟ニ其痕深シニ痘共ニ面部ハ厚クシテ  
 四肢ハ較薄キモノナリ  
 收靨ノ日期ニ至テ微熱尚稽留シ膿汁流滴スル者ハ  
 紫胡去半夏加瓜蒌連蕘湯ニ宜シ熱無キ者ハ大連  
 蕘飲若クハ五物解毒湯去大黃加水通連蕘ヲ與フ  
 ヘシ痘疔ハ幾箇所モ發スルモノナレハ衣ヲ脱テ  
 能ク改メ破敵ヲ綿片ヘ攤テ貼スヘシ腐肉ノ拔ケ  
 テ孔ニ成リタル跡モ破敵ニテ宜シ内服ハ大連蕘  
 飲ナリ孔大ニシテ膿ノ多ク出ルハ托裏消毒飲ニ  
 宜シ痘癰ハ先鋒ヲ貼シ膿ニ成ラハ早ク割開スヘ



シ鍼ヲ刺ス後ル、寸ハ必ス筆磬ニナルモノナ  
リ爛痘ニナリテ疲勞シタルハ補中益氣湯走馬牙  
疳ハ初メ咬牙シテ口臭ヲ覺ユル寸牙齦ヲ刺シ血  
ヲ去リ涼膈散ヲ與ヘ紫雪ヲ兼用トス瘍科秘録牙  
疳門ヲ參考スヘシ痘後ノ癩ハ尤惡證ナリ多クハ  
慢驚風ニ成テ死ス羚羊飲竒應丸熊參湯ノ輩ヲ撰  
用スヘシ痘毒ノ眼ニ入タルハ尤大事ト為ス世上  
ノ盲人ハ叩問スルニ過半ハ痘瘡ナリ其次ハ五疳  
ニ係ル風眼内障眼ノ類ハ又其次ナリ眼封ノ時ヨ  
リ眼ニ障リテ下思ハ、鯨鮫へ綿ヲ卷キ膠淚ヲ

拭ヒ去リ金公水ヲ點スヘシ其毒深クシテ腫痛ス  
ル者ハ第一ニ蟬鍼ヲ施シ洗塵散ニテ洗ヒ涼膈散  
加菊車ヲ與フ餘毒ノ摸樣ニテ大連菴飲ヲ用ユ

痘瘡應用方

參歸鹿茸湯活切痘色淡白疱不尖圓根無紅暈者氣虛  
而血縮者也必不成膿急宜用之托膿妙方

鹿茸酒炙去毛三錢 黃芪蜜炙 當歸錢各一

甘草六分 人參一錢二分 生薑一片 龍眼三箇

右七味同煎去渣入好酒一盃温服  
内解散痘疹全書七八日間痘色枯淡不起無漿者主之



人參 黃芪 甘草 白芍 川芎 常歸  
穿山甲 木香 金銀花 皂角刺 山查  
乾薑

右十二味煎服。

大連翹飲 活幼 治痘疹餘毒。

連翹 藿麥 滑石 車前 牛蒡 赤芍 各八分

梔子 木通 當歸 防風 各四分 柴胡 黃芩

荆芥 各二分 蟬退 五分 甘草 一分六分

右十五味竹葉燈心煎服。

洗塵散 家試 治眼疾諸證。

枯礬 黃蘗 菊花 石菖根 薄荷

右五味盛紅絹囊煎洗患眼。

玄參升麻湯 活幼 治夾斑夾丹。

玄參 升麻 甘草 防風 荆芥 牛蒡

右六味煎服。

托痘花蛇散 本草引王氏手集 治痘瘡黑陷。

白花蛇 連骨炙勿令焦三錢 丁香 七枚

右二味為末每服五分以水和淡酒下神効移時身上

發熱其瘡頓出紅活。

薰癢方 活幼



茵陳 白芨 荆芥 各等分

右為末以紙撚點火薰癢

華氏的里亞加 春林 治小兒丹毒痘瘡疔瘡癰疽及犬傷

蝮蛇螫

肉桂 丁香 各二錢 沒藥 十二錢 乳香 五錢

及鼻 四十錢 阿仙藥 五十錢

右六味研末蜜煉

家試的里亞加 治痘瘡灰白不起

蝮蛇脯 十錢 丁香 一錢

右二味研末蜜煉

葛根湯加防風 桂枝加葛根湯新加防風

大青龍湯 大承氣湯 桃核承氣湯 柴物湯

桂枝加黃芪湯新加防風及鼻 小柴胡湯 柴苓湯

大柴胡湯 半夏瀉心湯 柴胡加石膏湯 柴白湯

竹葉石膏湯 柴胡去半夏加瓜蒌連翹湯

黃連解毒湯加大黃或合白虎湯 三黃湯加辰砂

犀角地黄湯合三黃湯 千金內托散

神功內托散 參苓白朮散 托裏消毒飲

補中益氣湯 涼膈散或加菊花車前子 參連湯

熊參湯 五物解毒湯或去大黃加連翹木通



羚角飲 奇應丸 草兵丸 紫雪 潤肌油 先鋒

金公水 犀角 雜夫蘭

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 大熱胎毒, 大青藥, 犀角, etc.]*

小兒

水痘

赤痘

水痘ハ宋元ノ醫籍ニ其證治ヲ論セス蓋痘疹ニ混シタルナルヘシ明清ニ至テ諸家明辨アリ痘瘡麻疹ト同様ニシテ一生一患ノ病ナリ或<sup>ノ</sup>曰ク正痘ト異ニシテ再感三感ニ至ル者アリト其著書ニ見ヘタレ氏予未タ之ヲ目撃セス今水痘ヲ患フルモノヲ検査スルニ盡ク幼稚ノ者ニシテ絶テ大人ニ無シ若シ再感三感ノ有ルモノナラハ少壯老大ノ者



ヲ論セス患ヒヘキ筈ナレ氏予カ療治ニハ老大ノ  
 者ノ感シタル一人モ無シ此一事ニテ一生一患  
 ノ病ナルト明確ナリ是モ天行病ニシテ即外邪ト  
 リ流行スル寸ハ家家傳染スルモノナリ唯輕病ニ  
 エ痘瘡麻疹ノ大ニ流行スルカ如クナラス初感冒  
 ノ如ク發熱シ或ハ頭痛或ハ咳嗽或ハ嘔吐ノ出ル  
 モアリ一齊ニ見點シテ一時ニ行漿ス其形チ小粒  
 ニシテ其色嬌紅ナリ一旦ハ疹頂扁平ニナリ忽チ  
 起脹シテ水泡或ハ膿泡ニナリ皮薄フシテ潰レ易  
 ク多クハ稀疎ニシテ稠密ナルモノハ甚稀ナリ宛

モ輕痘ニ類似シタルモノナレ氏正痘ノ根窠圓淨  
 緊束ナルニ似ス又乍チ收靨シテ結痂モ至小ナリ  
 僅ニ五六日ニシテ全愈シ病後モ復餘證ナシ藥用  
 ニモ及ハヌ位ノモノナレ氏發熱ノ強キモノハ桂  
 枝加葛根湯新加防風若クハ荆防敗毒散ヲ與フハ  
 シ  
 赤痘ハ水痘ノ一種ニシテ形色及經過モ略水痘ニ同  
 シ唯水痘ヨリモ稠密ニ顆粒モ亦大ナリ色嬌紅ニ  
 シテ胭脂ヲ抹スルカ如ク起脹シ水泡膿泡相半シ  
 テ水痘ヨリハ一等重シ然レ氏起脹シ易ク又收靨



シ易シ八九日ニシテ全快ス治法ハ水痘ニ同シ餘  
毒ニテ小瘡ニ成ル者ハ五物解毒湯加連莖ニ宜シ

水痘赤痘應用方

桂枝加葛根湯新加防風 五物解毒湯加連莖

内科秘録卷之十三



